

書籍のご紹介

【《概説》】

インフルエンザとインフルエンザ菌

ーヒトの鼻腔に棲息し、時に病原を発揮する
細菌の研究をする若い研究者への提言ー】

帝京大学医学部名誉教授

紺野昌俊 著



日本臨床微生物学会の生みの親のお一人である帝京大学名誉教授の紺野昌俊先生が、『《概説》インフルエンザとインフルエンザ菌ーヒトの鼻腔に棲息し、時に病原を発揮する細菌の研究をする若い研究者への提言ー』を自費出版された。本文以外に文献紹介を兼ねた註が369もあるB5版275ページの大作である。その内容は、「現在の多くの細菌学の教科書において、僅かに1～2行のみでしか紹介されていない事項や、既に記載されなくなってしまう事項の裏側に如何なる研究業績が存在していたのか、さらにそれらの業績を築き上げていった研究者が如何に多く居られたか」ということを、「インフルエンザとインフルエンザ菌」の表題のもとに書かれた貴重な資料が詰まっている壮大な本である。実際に自分の手を使いデータを出し、数多くの原著を精読した人のみが実感できる感動と失望あるいは屈辱感に強く共感した。もし、紺野先生のこのご企画を本誌モダンメディアの編集委員である私が前もって知っていたならば、ぜひとも本誌に連載をお願いしたと思う。

紺野先生は、この本を日本臨床微生物学会の理事と評議員に無料で配布された。一般の書店では入手不可能なこの本を、きわめて異例のことではあるが紺野先生のご厚意で若い研究者のために50冊ほど、本誌編集部に分けていただけた。紺野先生が「発刊によせて」のなかで、直弟子の生方公子教授がこの本の出版に深くかかわっていることに触れられ、生方先生に、「多分、出版したとしても、全国で興味をもってくださいる方は10人くらいでしょう」と酷評されたと書かれている。しかし、還暦を過ぎ、私が忘れかけていた、大学教員として学生教育に、臨床検査医として膨大な日常業務の合間をぬって、ささやかな研究にあけくれていた青年医師時代に残してきた大切なことを思い出させていただいた、紺野先生の衰えない学問に対する情熱が伝わってくる本である。

希望される方は、モダンメディア編集室あてに、e-mailで申し込んでいただきたい。本書を紹介した私としては、紺野先生へのお礼をこめて、簡単でも良いから、読後感想文を本誌編集部宛てに送っていただきたいと思う。

医療法人社団愛育会 上尾中央総合病院 臨床検査科長・感染制御室長 熊坂一成

献本をご希望の方は、次のモダンメディア編集室のe-mailアドレスまでご連絡ください。

modern_media@eiken.co.jp

○献本希望であることを明記のうえ、ご氏名、ご所属、お届け先の住所、電話番号をご記入ください。

○なお、お申し込みはお一人様一冊までとし、ご希望が50冊になった時点で締切らせていただきます。

(残部、数冊となっております 平成23年3月22日(火)時点)